

## 平成 30 年度 横須賀美術館運営評価委員会

### ●横須賀美術館運営評価委員会（平成 30 年度第 2 回）

日時：平成 30 年（2018 年）10 月 26 日（金）14 時～16 時

場所：横須賀美術館 会議室

#### 1 出席者

委員会	委員長	小林 照夫	関東学院大学名誉教授
	委員（委員長職務代理者）		
		菊池 匡文	横須賀商工会議所専務理事
	委員	柏木 智雄	横浜美術館副館長
	委員	草川 晴夫	観音崎京急ホテル取締役社長
	委員	丹治 美穂子	横須賀市立鶴久保小学校校長
	委員	祓川 由美	市民委員
事務局	美術館運営課長		菅野 智
	美術館運営課広報係長		相良 泉
	美術館運営課管理運営係長		高橋 博之
	美術館運営課（学芸員主査）		工藤 香澄
	美術館運営課（学芸員主査）		富田 康子
	美術館運営課（管理運営係）		秋山 卓雄
	美術館運営課（学芸員）		日野原清水

#### 欠席者

館長	教育総務部長	阪元 美幸	
委員会	委員	本間 康代	市民委員

#### 2. 議事

（1）横須賀美術館の運営評価制度について

（2）平成 30 年度 美術館活動状況中間報告について

その他

### 3. 会議録

#### 【開会】

〔事務局・高橋〕：定刻になりましたので、「平成 30 年度 横須賀美術館運営評価委員会第 2 回」を開会します。本日、横須賀美術館館長の阪元は他の公務の出席のため、本委員会は欠席となりますことをお詫び申し上げます。

それでは、開会にあたり美術館運営課長からごあいさつをさせていただきます。

〔事務局 菅野課長〕：本日は、ご多忙の中、平成 30 年度 横須賀美術館運営評価委員会第 2 回にご出席いただき、誠にありがとうございます。

また、常日頃から横須賀美術館の運営にご指導ご鞭撻いただき、重ねて御礼申し上げます。本日の会議では、平成 30 年度事業計画に基づく、運営状況の中間報告をさせていただきます。

前回の 7 月の会議で、平成 29 年度の運営評価をしていただきました。

その際にいただいたご意見は、今年度の運営に反映させるよう努力しております。また、今回は年度途中ですので、計画どおりに実行できているものもあれば、これから実行していくものもあります。

皆様から忌憚のないご意見をいただき、平成 30 年度の美術館の取り組みが当初の計画以上になるよう、真摯に取り組んでまいります。

それでは、本日もよろしくお願いいたします。

〔事務局・高橋〕：本日は、本間委員より欠席の旨、連絡をいただいております。

また、本日は傍聴の方はおりません。

それでは、資料の確認をさせていただきます。

まず、委員の皆様には事前にお送りさせて頂いておりますが、資料番号が付いていない「平成 30 年度 活動状況中間報告書」 A 4、26 頁の資料でございます。

次に、本日、机上にご用意させて頂きましたものとして、次第 A 4、1 枚でございます。

資料 1、「運営評価委員会スケジュール」 A 4、1 枚でございます。

また、前回の会議におきまして柏木委員から美術品購入に係わる議会等での議論について、示していただきたい旨のご要望がありましたので、その関係資料として「美術品等取得に関わる監査委員等からの意見について」という資料を作成しました。A 4、3 枚でございます。

以上が本会議の資料となります。不備等ございませんでしょうか。

それでは、小林委員長、議事の進行をお願いいたします。

〔小林委員長〕：それでは、次第に沿って、議事を進めます。

議事（１）平成 30 年度 美術館 活動状況 中間報告について、報告書の体裁を含め、事務局から説明をお願いします。

〔事務局 菅野課長〕：平成 30 年度 横須賀美術館 活動状況中間報告についてご説明させていただきます。

この中間報告は、今までの評価サイクルを補う形で、平成 25 年度から実施しているものですが、年度途中での事業報告を行なうことにより、委員の皆様よりご意見をいただき、事業の早期改善に資することを目的としております。

また、事務局としては、業務進行管理の自己点検ツールとしても有効であると考えております。

体裁としては昨年同様、30 年度の事業計画書に基づき、評価項目ごとに 9 月末までの活動状況を「斜体字」で記載しております。

年度途中のため、数的資料に欠けるものが多々ございますが、その点をご容赦頂きたいと思っております。

それではお手元の資料、「平成 30 年度 横須賀美術館 活動状況中間報告書」に基づき、項目ごとに一括して説明させていただきます。

〔事務局・相良〕：それでは中間報告書の 1 頁をご覧ください。私からは、「I 美術を通じた交流を促進する」のうち、「①広く認知され、多くの人にとって横須賀を訪れる契機となる。」の中間報告について、説明させていただきます。

まず平成 30 年度の事業計画に対する執行状況ですが、「1 展覧会の実施」につきまして、予定通りに展覧会を開催しています。現時点の観覧者数の状況は、中段の表のとおりです。4 月 28 日開催の「集え！英雄豪傑たち」は、観覧者数で見ると達成率 71.1%と伸び悩みましたが、6 月 30 日開催の「三沢厚彦 ANIMALS IN YOKOSUKA」は観覧者目標数 3 万人と高い設定であったにも関わらず観覧者数 3 万 5 千人を超え、達成率 119.6%となりました。昨年度の tupera tupera 展と同様に、SNS 上で情報が拡散し、若いファミリー層を中心に展覧会の魅力をアピールできたものと分析しております。

「2 広報・集客促進事業」につきましては、1 頁中段から 3 頁までに記載のとおりです。昨年度は開館 10 周年を前面に打ち出してイベント等を行い、観覧者数 11 万人を突破するという結果を残しました。今年度も引き続き魅力的なイベントを、外部連携を進める中で実施しております。

続きまして「達成目標」についてですが、4 頁の上段の表をごらんください。

9 月末現在の時点で、実績が 61,687 人、年間観覧者数 10 万人以上に対しての達成率で見れば 59.3%です。昨年同時期の数字は 58,031 人ですので、今後も順調に観覧者数を伸ばせば今年度も目標を達成可能な状況です。

次に「実施目標」ですが、「様々な広報媒体の特性を生かして、効果的な広報活動を実施し、交流を促進する。」ほか 4 点の目標に対し、「パブリシティによる取り扱い件数」「美術館公式ツイッターのフォロワー数」「募集型企画旅行による観覧者数」「商業撮影の受け入れ件数」の 4 つを指標としています。

まず指標のうち、「1 パブリシティによる取り扱い件数」ですが、今年度の取り扱い件数は176件で、昨年同時期の126件に比べ増加している状況です。5頁をご覧ください。

次に「美術館公式ツイッターのフォロワー数」ですが、前年度29年度末の9,020人から9,187人に増加しています。

次に「募集型企画旅行による観覧者数」です。上半期の観覧者数は昨年同時期の213人に対し、今年度は合計442件となっております。前年度に比べ増加していますが、クラブツーリズムなどの日帰りバスツアーの申込が増えたことが要因となっております。クラブツーリズムには毎年、美術館独自で営業活動を行っており、その影響もあるものと思われま

す。最後に「商業撮影の受け入れ件数」です昨年同時期の数字は14件に対し今年度は18件で、昨年より若干増加しています。今後も相手方のニーズに併せた運用を心がけて撮影の受入を行いたいと考えています。

私からの説明は以上です。

[事務局・日野原]:「②市民に親しまれ、市民の交流、活動の拠点となる」の事業計画「美術館ボランティア活動の推進」についてご報告します。現在、美術館では5種類のボランティアが活動しております。まず、ギャラリートークボランティアは土日祝日に所蔵品のギャラリートークを行っています。今年度は新規募集を行い1名の応募がありました。現在の登録人数は16名です。昨年同時期よりも2回多い10回の研修を行い32回のギャラリートークを実施しました。活動日数、活動人数は昨年同時期をやや上回っています。

次に「小学生美術鑑賞会ボランティア」です。小学校6年生が来館する時にその受入の補助を行っていただきます。今年度新規ボランティアを募集し、3名の応募がありました。現在の登録人数は20名です。新規ボランティアを迎えたので、こちらも昨年より1回多く研修を多く行いました。活動日数、活動人数ともに昨年同時を上回っています。

続きまして、「みんなのアトリエボランティア」は月に1回開催している障害児向けワークショップの補助を行っていただきます。現在の登録人数は14名です。月一ですので、現在の実回数数は6回です。のべ19名が活動しました。今年度から申し出があれば補助に入っていただくことにしましたので、昨年度より活動人数は増えています。

7頁「プロジェクトボランティア」です。春、夏、冬の3回、海の広場を活用し、比較的大人数に参加いただけるイベントをボランティアが企画、運営、実施します。新規ボランティアが3名加入し、現在の登録人数は14名です。今年度は春に「くるくるお花をつくろう」「窓に広がるお花畑」を実施、夏に「海の広場でTシャツペインティング」を実施しました。現在はクリスマスイベントの準備をしています。昨年度が10周年記念イベントとして規模の大きいイベントを実施したため、今年度は活動日数、人数ともにやや少なく見えるかと思いますが、昨年の規模が大きかったということで、例年並みの数字となっております。

最後に「プロジェクト当日ボランティア」です。(4)の「プロジェクトボランティア」の当日補助というかたちで参加いただきます。春と夏のイベントに参加いただきましたが、遠方や多忙な人が多かったため、当日の手伝いのみというやや限定的なかたちになっています。

続きまして、8頁の「達成目標」についてです。「市民ボランティアの活動者数および協働事業への参加延べ人数2,400人」を目標に設定しています。現在の状況につきましては下段の別表をご覧ください。9月末の段階で合計1,288名の参加がありました。目標の半数を超えていますが、平成28年度、29年度が2,600人を越えているのに対し、今年度は目標の2,400人を達成できるかどうかという段階です。理由としましては、プロジェクトボランティアのイベントがお花をつくる、Tシャツペインティングであったため材料で参加人数が絞られる性格のものであったため、プロジェクトボランティアのイベント参加者数が昨年度を下回ったことがあげられます。

9頁の「実施目標」、「市民が美術館に親しみを感じ、訪れる機会を作る」「市民ボランティアが、やりがいを持っていきいきと活動できる場を提供する」です。

こちらの目標につきまして、5つのボランティアの活動を通して実施していけるよう今年度も引き続き努力しております。また美術館のボランティアは労働ではなく、それぞれが自主的な創意や経験を生かして企画を行なっていく。そういったプロジェクトボランティアも実施しておりますので、ボランティアとの協働を通じてさらに美術館の活動を充実していきたいと考えております。

〔事務局・工藤〕：続きまして、10頁をご覧ください。「Ⅱ 美術に対する理解と親しみを深める」「③ 調査研究の成果を活かし、利用者の知的欲求を満たす。」について説明いたします。

事業計画の1展覧会事業についてご説明いたします。企画展は年に6回開催しておりますが、現在既に2本実施しております。4月28日から6月17日まで開催していた「集え！英雄豪傑たち」では、歌川国芳を中心とした江戸の浮世絵から近現代の武者絵や歴史画を展示しました。6月30日から9月2日まで「三沢厚彦 ANIMALS IN YOKOSUKA」を開催しました。人気のある現代彫刻家の三沢厚彦さんの個展を開催し、好評を博しました。

続きまして11ページをお開きください。(2)所蔵品展・谷内六郎《週刊新潮表紙絵》展は年に4回開催しておりますが、現在のところ第二期所蔵品展まで開催しております。

「2 教育普及事業」では「知的好奇心の育成と充足の機会を提供」を目的として5種類の項目を挙げております。「展覧会関連の外部講師による講演会の開催」「ワークショップの開催」「映画上映会の開催」「学芸員による企画展ギャラリートーク」「学芸員による展覧会観覧の案内・解説」はそれぞれ11頁から13頁にわたりまして、現状実施したことを記載しております。

それでは13頁をお開きください。「3 美術図書室運営事業」こちらでは、「所蔵資料の充実」「所蔵資料に関する情報提供」を目的といたしまして、図書の受け入れを行っております。9月末現在受入数として、図書155冊、カタログ243冊、定期刊行物270冊を順調に収集しております。資料状態を確認し、手入れも行っております。

達成目標として「企画展の満足度80%以上」を掲げております。これにつきまして、9月末までの数値として14頁上段に表がございます。こちらで平成30年度9月末までの満足度の数値87.6%になっております。このまま引き続き、80%以上を達成できるよう努力

してまいります。

実施目標といたしまして、「幅広い興味に対応するようバランスをとりながら、年間6回（児童生徒造形作品展を含む）の企画展を開催する。」を含めて以下6項目を掲げております。私からの説明は以上です。

〔事務局・富田〕：「④学校と連携し、子どもたちへの美術館教育を推進する」について、説明いたします。

この項目の事業計画は、学校連携と、子どもたちへの美術館教育の二つに大きく分けて評価をしております。

まず、15頁、学校との連携についてです。

「1 中学生のための美術鑑賞教室の鑑賞の開催」は、計画通り実施しましたが、参加者は、低調だった昨年度とほぼ同程度の115人となりました。2年続けて低水準で推移していることから、事業効果が薄れていることは否めないと見ています。かつては部活単位という動きがあり美術部の活動として団体で来館するケースが複数校でありましたが、ここ2年ほどでそれが見られなくなり、中学生も、友達や家族と観覧するスタイルが定着してきたことが、参加者数が増えない理由の一つと見られます。したがって、現状に合わせた、新たな事業スタイルを検討してもよい時期ではないかと考えます。

「2 美術鑑賞会の受入れ」は計画通り進んでおり、内容も安定しています。

「3 学校で行われる鑑賞活動の支援」については、おもにアートカードの貸し出しに関して、引き続き多くの問い合わせをいただいています。今年度は、市外の学校を中心に、これまで8件の貸し出しを行いました。

「4 職業体験の受け入れ」、「5 学芸員実習の受け入れ」は、いずれも計画どおり進んでいます。職業体験については、9月末までで7校12人、学芸員実習についても、夏休み中に7人の大学生の受け入れを行いました。

「6 教員のためのプログラム」は、昨年度は5回に分けて開催しましたが、今年度、夏休みの1回だけに絞って講座を開催しました。市の内外から38人の参加を得ることができました。開催時期も含め、今年度の講座は比較的好評だったため、当面は、この時期の講座開催を続け、何らかの連携事業ができるよう、機会を探っていきたいと考えます。

続いて、16頁、子どもたちへの美術館教育です。このうち「1 ワークショップの開催」は計画どおり進んでおります。

「2 映画上映会の開催」も計画通りです。今年の野外映画会は、2日間とも天気に恵まれ、参加者数760人となりました。これは、過去最高だった平成26年と同じ数値です。

「3 親子ギャラリーツアーの開催」については、1回6名の参加者を得ております。「4 保育園との連携」も、計画通り順調に受け入れを進めております。

では、達成目標について、17ページをご覧ください。達成目標「中学生以下の年間観覧者数22,000人」に対し、今年度は9月末までで10,724人と、目標の5割ほどの数字です。単純に数字で見ますと、昨年度と同水準ですが、昨年度はこのあと、家族層向けの展覧会「tupera tupera」があったのに対し、今年度は、この先、子どもを対象とした展覧会が造形作品展のみとなっています。したがって、現時点で5割というのは、やや厳しい数字と見て

います。今後の展覧会で、子どもたちの来館を促せるよう、昨年以上の努力が必要と考えています。④については、以上でございます。

〔事務局・日野原〕：19頁「⑤所蔵作品を充実させ、適切に管理する」について説明いたします。事業計画として5項目を挙げています。順番に説明します。

「1 美術品の収集」につきましては、平成30年度の収集作品は年明けの美術品評価委員会を経て決定するため、現時点では未定となっております。

「2 所蔵作品の管理」につきまして、今年度は「モダンアート展」のあと「矢崎千代二展」を予定しております。その展覧会に出品する作品を優先して、作品の保全に配慮し額装替、新規額装を行っております。作品の貸出につきましては、瀬戸内市立美術館に清宮作品50点を貸出しました。

「3 環境調査の実施」について、年2回行います。今年度から実施範囲を広げて、従来の収蔵庫、保管庫周りに加えて展示室内で環境調査を行いました。（調査の結果）少数ですが、展示室内で2回にわたり紙魚類が捕獲されたことを受け、企画展展示室でブンガノン散布を行いました。

「4 美術品評価委員会の開催」について、収集作品を審議頂く美術品評価委員会を年明けの平成31年度3月頃に開催予定です。

「5 美術品取得基金の検討」について、基金のあり方について具体的に検討しております。また、併せて将来美術品を購入するための方策についても検討しております。この件につきましては、後ほど高橋係長よりご説明申し上げます。

「達成目標」は「環境調査の実施 年2回」「美術品評価委員会の開催 年1回」です。環境調査についてはすでに実施いたしました。美術品評価委員会につきましても例年同様年明け3月頃に開催の予定です。

「実施目標」につきましても、作品収集、額装修復、貸出等をとおして着実に実施する見込みです。

〔事務局・高橋〕：20頁の5番に美術品等取得基金の検討という事業計画があります。それに関係いたしまして、本日机上配布させていただきました、A4 3枚の「美術品等の取得に関わる監査委員等からの意見について」という資料を配布させていただいておりますので、説明させていただきます。

説明資料の1、美術品等取得基金の状況についてでございます。

横須賀美術館では平成19年の開館以来、美術品の購入を行っていません、また基金を活用した購入は平成18年度から行っておらず、基金が保有する現金の利子を毎年基金に積立てるだけでした。

また、基金により購入した美術品は一般会計による買換えも進まなかったことから、基金が4億円弱の美術品を保有している状況でした。

下の表を見ていただきますと、基金の現在高が記載されています、平成29年度末の現在高は美術品等が399,807,500円、現金が397,175円となっており合計で400,204,675円となっております。

現在の基金の状況は現金が40万円ほどしかない状況であるため、40万円弱の美術品を購入することは可能ですが、この金額では困難であります。美術品を購入するには一般会計による買換えを行い、現金を増やす必要がありますが、開館以来それも行われていなかったことから、美術品の購入を行う事ができず現在に至ります。

続きまして、2の監査委員の意見及び市議会における質疑の概要についてです。基金が活用されず美術品の購入取得が行われていないことから、市の定期監査で美術品取得の長期的な視点でのあり方、取得計画、資金の積立の仕組みづくり等の意見が公表され、市議会においてもその点を指摘する質疑が行われております。

次頁の平成29年度定期監査における監査委員からの意見をご覧ください。監査委員からの意見は美術館としても非常に重く受け止めておりますので、読み上げさせていただきます。

(監査委員からの意見を読み上げ)

次頁、平成30年3月定例会(本会議、教育福祉常任委員会)における質疑の概要です。

(質問と答弁を読み上げ)

以上が平成30年3月定例会の質疑となります。

概要で記載の検討内容については、3月議会で行われる予算審議がまだ行われておりませんので、本日お話することはできませんが、市議会や監査委員からこのような質問、意見をいただいております。現在検討を進めていることを報告させていただきます。

[事務局・高橋]:続きまして【⑥「利用者にとって心地よい空間・サービスを提供する。」】について説明いたします。中間報告書の21頁です。

事業計画の運営業務、「受託事業者との定期的なミーティングの実施による情報共有」ですが、こちらは、計画通り運営事業者連絡会議を月1回、朝礼を毎日、継続して実施しております。当日観覧予定の団体の人数等、情報を共有しております。

次に「受託事業者からの業務日報や来館者アンケートに基づく課題の把握」ですが、受付や展示監視スタッフから業務日報を提出していただき、課題や苦情の把握に努めています。これによって、事務や学芸での対応が早くなったと考えております。

また、月1回の運営事業者会議において、情報を共有するほか、ショップやレストランに対するアンケート結果等を提供しています。

次に維持管理業務ですが、業務委託をしている設備担当スタッフが設備点検を毎日実施するとともに、職員が巡回することにより、機械の故障や施設の破損箇所等、館内の不具合を把握し、迅速な対応に備えています。

次に達成目標ですが、「館内アメニティ満足度 90%以上」のところ、9月末現在で 94.5%。「スタッフ対応の満足度 80%以上」のところ、88.0%となっています。

スタッフ対応の満足度につきましては、受付・展示監視業務をおこなっている現在の事業者が業務を開始してから4年が経過しますが、日常業務以外にも、定期的な研修を実施するなど、様々な面で努力をしていると感じています。

また、運営業務でも触れましたが、月1回の運営事業者連絡会議や、毎日の朝礼など、事業者・スタッフとのコミュニケーションに努めており、今後も、満足度の向上に努めて参ります。

⑥については以上です。

[事務局・富田]:では23頁をお開きください。「⑦すべての人にとって利用しやすい環境を整える」についてご報告いたします。

まず、事業計画です。この項目の事業計画は23頁に1から6まで6つの項目を挙げております。順番にご報告申し上げます。

「1 福祉活動講演会の開催」については、ここに記載がございませんが、今年度後半での実施を計画し、講師と調整を行っているところです。

「2 福祉関連イベントの開催」は、今年度、横須賀市点字図書館との連携事業として、視覚障害者を対象とした出張鑑賞会を計画し、まさに本日、それから明日、実施を予定しております。

「3 みんなのアトリエ」は、月1回の開催ですが、9月末までで6回、延べ人数で147人の参加を得ております。昨年度の同時期の参加者は93名であったのに対し大きく増加しています。これについては、今年度、広報先を拡大し、美術館HP、広報よこすか、そのほか障害をお持ちの方が利用される施設などへのPRに努めており、こうした広報の成果が表れたものと見ております。内容についても、リピーターの多い事業ですので、そうしたリピーターの方たちが新鮮味を持って参加できるよう、海の広場を使うなどの工夫を取り入れて、リピーターの方の満足度を保つよう心掛けていますので、参加者の増加は、そうした効果が表れたものと見ています。

「4 未就学児ワークショップの実施」は、年1回の計画で、今年度は平成31年3月実施の計画でございます。

「5 他館との連携 MULPA」です。こちらは、昨年は講演会を行いました。今年度は、11月に当館のスタッフを中心にユニバーサル研修を実施する予定で講師と調整を進めております。

「6 託児サービス」については、必要な時に必要なサポートを行うということで、今年度は、9月末までに5回実施いたしました。

すでは、続いて達成目標です。24頁に「福祉関連事業への参加者数360人以上」という

目標が、また、続く 25 頁に、9 月末までの実績が掲載されています。

25 頁の表でご覧いただけるように、今年度に関して、未実施の部分が多くなっておりませんが、9 月末までに 147 人の参加を得ております。これについては、現在進めている準備状況、予定されている規模等からみて、計画どおり事業を実施すれば、最終的には、目標に達することができるのではないかと見込んでいます。

⑦については、以上でございます。

[事務局・秋山]：それでは、最後に、目標⑧ 事業の質を担保しながら、経営的な視点を持って、効率的に運営・管理する について説明いたします、26 頁をご覧ください。

まず、事業計画ですが、今年度の大きな取り組みとしましては、昨年引き続き空調自動制御システムの改修を実施中で、これによって、より効率的なエネルギー管理ができるようになるかと考えています。

次に、達成目標ですが、電気使用量、水道使用量、事務用紙使用枚数を直近 3 年間の平均値を目安としています。

今年の夏は猛暑が続き、ピーク時には電力使用量が契約電力量を超過した日もありましたが、トータルでは前年の同時期に比べて 3 %程度の増加で納まっています。ただ、電気料金は 10%増加しており、料金値上がりの影響を受けています。

水道使用量と紙の使用量については、前年度の同時期に比べて 2～3 %程度減少しています。これ位の増減で推移していけば良いのではないかと考えています。

報告は以上です。

[事務局 菅野課長]：以上で資料の説明は終わらせていただきます。

[小林委員長]：では非常に丁寧に説明いただきました箇所についてご質問を受けるということになりますが、では「①広く認知され、多くの人にとって横須賀を訪れる契機となる」の問題に関しまして何かご質問がありましたらどうぞ。

(質問なし)

[小林委員長]：特によろしいですか。ではまたお気づきになりましたらお話しいただくといいことで、よろしくお願いします。

[小林委員長]：6 頁から 9 頁の「② 市民に親しまれ、市民の交流、活動の拠点となる」について、何かございますか。

(質問なし)

[小林委員長]：では、また後でご質問していただくことにします。

〔小林委員長〕：「③ 調査研究の成果を活かし、利用者の知的欲求を満たす。」つまり、美術について理解と親しみを深めるという箇所、10 頁から 14 頁までです。

〔丹治委員〕：この箇所ではないかもしれませんが。以前、私も要望を出しましたが、このまま図工や美術の教科書に載っている作家の作品をできれば、長期期間中に招いていただくと、少しでも美術館に来る機会を増やすことができる。今回は、そのものではないですが、教科書に載っている作家の作品がありますよ、とチラシをいただきました。私も職員に増し刷りをしました。これが来館者数にすぐにつながるかどうかはわかりませんが、これを通して教員が関心をもったり、子どもたちの前で話をする時に使えるということでは、すごくありがたいなあ。私自身もここで勉強しながら、取り組むことができましたので。またこういったかたちで、ぜひ今後も進めていただくと教員の勉強になると思います。

〔小林委員長〕：いい試みですよ。他に何かございますか。

(質問なし)

〔小林委員長〕：次の4番の「学校と連携し子どもたちへの美術館教育を推進するという、15 頁から 18 頁に至る部分で何かご質問等々がありましたらどうぞお尋ねください。一生懸命、美術館のほうでは学校にいろいろプログラムを提供しているようですが、どうですか、反応などは年々高まって良くなっているというような、そういう方向で受け止めてよろしいのでしょうか。

〔事務局・富田〕：目に見えたものとしては、平成 25 年度に作成いたしましたアートカードが効果的に機能していると捉えています。小学生の美術館鑑賞会を担当される先生方に、来館前にアートカードを利用しましたかとお尋ねすると、半分くらいの先生方が、事前授業で利用したとお答えになります。それを通して、子どもたちの作品への親しみ、作品に対する認知度は圧倒的に上がったという実感があります。その面については、私どもが先生方と一緒に作り上げた教材が、次第に現場で定着をしていっており、一定の効果を考えています。ただやはり、教材は教材に過ぎませんので、今後より積極的に活用していく、また、飽きられないようにするというのも必要で、そのような視点を持って学校連携の新しい段階を模索している状況です。

〔小林委員長〕：横須賀美術館では学校との連携をかなり重視しておられて。この学芸員実習というの、希望者はかなり多いのですか。

〔事務局・富田〕：例年、7 名程度の募集ということで、年度末から翌年の 5 月にかけて、ホームページ上に募集の告知を出しております。そうすると大体、定員を超えない 7、8 人程

度が応募してきている状態ですので、まあほどよい数字なのではないかと思っています。

〔小林委員長〕：学芸員さんのほうでは受け入れるのが大変でしょうけれど、大学で学芸員課程を開設するのは割合、簡単にできるんですよ。ところが実習先がなくて、文科省のほうでも、学芸員課程をつくるのは結構ですけれどちゃんと実習先を考えていますかなどといわれたことが過去にありました。受け入れるのは大変でしょうけれど、こちらは公共的な美術館ですので、続けていただければと思いますね。では、これもまた、何か気をつく点がありましたら、あとからでもいいので言っていただくということで、次の「⑤所蔵作品を充実させ適切に管理する」という問題で、今日は特別に、監査委員の資料なども添付されています。これについては、柏木委員のほうからどうぞ。

〔柏木委員〕：資料の提供ありがとうございました、これを拝見しますと、当初基金が4億円あって、そのほとんどを使い切っていて、本来であれば基金が保有する絵画を一般会計で買い換えを行うところ、財政難ということが理由でしょうか、買い換えが進まない状況で、基金は現在40万円弱の現金しかない状態ということですね。

そうすると横須賀美術館が開館前に購入した基金で保有する美術品は市としてどのような位置づけになるのでしょうか。

〔事務局・高橋〕：現在基金では約4億円のほとんどを美術品で保有している状況です。

本来であれば美術品を一般会計で買い換えをして現金化を行い、美術品は備品として登録しなければいけません、買い換えが行われていないため、開館以来美術品を基金が保有したままの状態が現在まで続いています。

〔柏木委員〕：そうすると今後も一般会計で買い換えをするのは難しい状況なのでしょうか。

〔事務局・高橋〕：財政状況が厳しい中で、美術品の買い換えを行う事は難しい状況です。現在、基金のあり方について美術館では検討を行っています。議会の予算審議もありますので、具体的な検討内容のお話はできませんが、3月定例会で予算が可決された段階でお話させていただければと思います。

〔柏木委員〕：基金に属している動産を美術館が管理を任されているという、ことですか。

〔事務局・高橋〕：現在基金が保有している美術品は買い換えができていないため、美術館で備品に準じた管理が行われております。

〔事務局 菅野課長〕：少し補足をさせていただきます、美術品については基金保有の約4億だけでなく、それ以前に購入した美術品が数多くありまして、全体で20数億購入していると思います。この美術品等取得基金は平成13年に設置されておりまして、平成18年度まで基金を活用して美術品の購入がされており、一般会計で買い換えを繰り返して購入をし

てきました。美術館では平成 18 年度に美術品を購入して以来、買い換えを行っていないため現金がほぼなくなってしまう、それ以降購入していない状況になっています。

買い換えを行っていないため、美術品は基金が保有している状況となっておりますが、管理や使われ方は備品と同様の扱いで管理がされています。

〔柏木委員〕：基金が設置される前は直接市が購入されているものは備品で管理がされ備品として登録がされているのでしょうか。

〔事務局 菅野課長〕：直接市が購入したものは備品登録がされています。

〔事務局 菅野課長〕：予算獲得に向けて財政当局との協議もあり、今の段階でこのようになりますという、お答えは形も固まっていないことからできないのですが、美術館としては美術品の購入は行わなければならない使命と考えております。

また監査委員からも資料でお示ししたとおり意見をいただいていることや、美術品評価委員会、本委員会でも美術品の購入についてご意見をいただいておりますので、いただいた意見は大事にしながら、できることは行って行きたいと考えております。

〔柏木委員〕：本会議と常任委員会の答弁を読ませていただきますと、具体的な方向性や案がでている訳ではないのでしょうか。

〔事務局 菅野課長〕：確かに購入にあたっては、新たに基金を積立型に変える方法や、寄附をいただくなど、様々な検討があると思います、それを踏まえて横須賀市として何が可能であるかを検討しています、まだ具体的にこのような方向で行いますという状況にはなっておりません。

〔柏木委員〕：基金でやるかもまだ決まっていないのですね。

現状はよく分かりました、ぜひ美術品購入が美術館として収集の手法として購入が続けられるように、方策をとっていただけたらと思います。金額の問題でなく購入ができるということが館としてのアピールとして大事だと思います。

〔事務局 菅野課長〕：今現在 10 年超えて作品の購入はしていない、このため横須賀美術館は予算がないからということで情報も入ってこないことが続いています、一步踏み出すことで状況が変わってきますので可能な限り努力はしてまいります。

〔小林委員長〕：よろしいですか、ほかに質問はありますか。

〔菊池委員〕：この資料は初めてでてきて、仕組みがあまりよく分からないのです。

資料に基金の存廃という表現がありますが、基金の廃止とはどのようなことになるのでしょうか。

[事務局・高橋]：今現在、基金が美術品を保有している状態であります。仮に廃止した場合の清算方法については財政当局と協議となります。基金が保有している美術品をすべて一般会計で一度買い換えを行い現金化した後に廃止する方法や、基金廃止に伴い、美術品を美術館に移管して廃止する方法など手法はいくつかあるかと思えます。

基金を廃止するのか、存続させるのかを含めて現在検討を行っておりますが、今の段階では具体的な話は決定しておりませんのでお伝えすることができません。

[菊池委員]：美術館側としてはどうですか、存廃についての評価は、どうでしょうか。

[事務局・高橋]：現在の基金に仮に現金がある場合は、議会の予算審議を受ける事なく、いい絵があったら、即購入ができるすぐれた面があります。基金ではなく備品で購入する場合、当然議会の予算審議を受け購入する必要があります、美術館として市民の皆さんや議会から批判を受けたくないよう、様々な面から今後の基金のあり方について検討をすすめています。基金の存廃についてはこれからの検討なので、今は申し訳ありませんが、お答えできません。

[菊池委員]：何でこのような質問をしたのかといいますと、この資料だけを読みますと美術品等取得基金だけの非常に狭義な議論だと感じているからです。基金の手法の議論をしてもお金はない訳で、これを爆発的に増やす手法などがあれば、このような状態にはなっていないと思います。横須賀市として美術館の価値とか教育施設としての位置づけをちゃんと整理をして、このようなものを取りそろえる必要がある以上は、基金にしてやるのか、廃止するのかそのような問題を先に議論をしないと、美術館としての前向きな議論はできないと思います。本質を外して議論をしてもいつまでたってもこの問題は解決できないと思います。

横須賀市として美術館をどのように位置づけをし、今の所蔵品がこのような状況で、これから美術館をこのようにしなければならない、そのためにはお金がこれだけ必要だ、これをどのように集めるかの議論があって、基金とするのかそれ以外のやり方とするのか、美術館だけでいくら考えてもお金が集まる訳がないわけで、市全体で考えていかなければならない問題の規模であると思います。器だけの問題をやっても、議論の無駄に感じてしまいます。

[事務局 菅野課長]：美術品の購入は横須賀美術館では十数年行っていない、これは美術館としての長年の課題と思っておりますし、新たな美術品が買えないことにより所蔵品展がいつも同じものばかりが展示されているという市民の方からの意見をいただいたりしているのは理解をしているところです、当然現状のままでは良くないことであることは理解しておりますし、新しい美術品を購入することで美術館が活性化し、より多くの方に美術作品を飽きられえることなく見ていただくことは必要であり、リピーターの方を増やしていくためにも、購入はしていけないといけないと思っております。ただ現実的には予算の問題もあり購入は今までできませんでしたが、開館から十年以上が経過し、これからの先をみても、しっかりと美術品の収集はしていけないといけないと考えております。美術館として今後ど

のようにしっかり考えて、財政当局に考えを伝え予算の要求をしていきたいと思います。今回の話はテクニク的な話になってしまっていますので、美術館としての考え方をしっかりと持って今後どうしていくか、今までの状態がいいとは思っておりませんので、美術館を発展させるにはこのような作品が必要だということを考えていきます。

ただ長年購入を行っていないことから情報が入ってこない、具体的な絵はお示しできませんが、美術館には収集方針もありますし、方針に沿った形で購入をすることを考えていきたいと思います。

[菊池委員]：一つだけ言わせてもらいますとそれ以外の部分で今まで議論、評価をしてきた部分があって、その中でボランティアなど関わってきた学芸員の方たちが努力してきたのではないですか。この原動力、モチベーションは所蔵品や作品がいろいろ新しいものかどうか、自分たちもこう教えたくなるとか、新陳代謝があってモチベーションが上がって、さらに企画展に繋がっていくと思っています。その原点となる作品が硬直化した中では実際のところ学芸員さんのモチベーションは、今ぎりぎりのところまで来ているのかと思っています。マンパワーの活力への影響が出てくると、全体的な美術館としてのエネルギーも落ちてくると思いますので、きちっと美術館政策として市当局と話し合っ、美術館が10年の節目を迎え、この先10年をこのように運営していく、そのために所蔵品をこのような位置付けにしていく、根本的な部分の議論について市当局とそろそろしていいのかなと思っています。

[事務局 菅野課長]：当然、学芸員も現状でいいとは誰も思っていません、美術館をよくしていくには新たな作品を購入、収集して次に繋げていくことを考えていかなければなりませんので、学芸員共々しっかりとした計画を持って、市側に伝えていきたいと思います。

[柏木委員]：収集を行わないことがなぜ問題になるかといいますと、コレクションがなければ美術館と言わない訳で、コレクションがすべての美術館活動の根幹となります、附随する様々な社会教育の活動を含めてコレクションが根幹であり、美術館を設置した以上、コレクションを育てていかないといけないと思うのです、監査委員会からのご意見で基金保有の美術品の買い換えについて美術館から要望しなさい、あるいは基金への新たな積立の仕組みについて提案しなさいと言われており、市直営館なのでこのようなことを求められると思いますが、市の政策のレベルでどうするのか検討することが必要ではないか、美術館だけではどうにもならないと思うのです。まずコレクションを育てていくことが美術館を設置した以上、なにより必要であるという認識をもってそのためにどうすることが可能なのか、莫大な市費をコレクションに投入というのは難しいと思いますし、基金も美術館以外でも基金を持っていると思いますので調整も必要かと思いますが、しかし美術館を建てた以上は開館以来購入が凍結されてしまい、基金保有の美術品が買い換えも行われていない状況は象徴的であって、設立された時の美術館の状況ということが如実に物語っていると思います。開館から10年が経過し今回、美術品の購入について議論されていることは素晴らしいことだと思います、美術館の根幹となる美術品を少しずつでも育てていくためどのよう

にする必要があるのか、政策を作る側が現場の人と話をしながら進めていただけたらと思います。

〔小林委員長〕：最近、市の美術館に対する評価は変わってきていますか。

〔事務局 菅野課長〕：市からの評価について変わってきたか分かりませんが、ただ予算の事になりますと厳しいと言われる、我々所管課は自らの施設を良くしていきたいと予算を要求していきますが、役所全体で予算を調整する担当課では市長の施策などを見ながら優先順位により予算を付けており、財政状況は厳しかったと思います。様々な協議はしているところですが、どのように美術館をしていきたいのか、こちら側の考えを伝えていきたいと考えております、予算要求の結果だめであっても、諦めず継続して要求をしていきたいと思えます。美術館を建てたからそのままいいというような考えではありません。

〔小林委員長〕：美術館を建設されたのはいいのですが、運営の方法についてネガティブなご意見もあって、それを払拭するよう美術館側が自己評価、自己点検をしながら分かっていたくよう努力を持っている部分があって、最近市議会も事情を分かっていたいていようですので、このような自己評価、自己点検をしながら美術館のあり方を考えていかなければならない部分があって、財政状況など横須賀の特殊な事情というものもあると思えますので、考慮をしながらやっていかなければならないと思えます。

〔事務局 菅野課長〕：市全体の財政状況の中で美術館に数億円単位の美術品購入のための予算が付くということは思っていないのですが、少しでも作品が購入できる予算があれば、それを最初の一步として継続的に少しずつ増やしていくよう考えていきたいと思えます。

〔柏木委員〕：一気に美術品購入を何億円は無理と思えます。

〔事務局 菅野課長〕：たとえ少額でも、まずは一步踏み出すことができるようしていきたいと思っております。

〔柏木委員〕：コレクションは美術館にとって武器となります、コレクションはシティセールスになるのです、行政の中の文化施策でコレクションをどのように考えるのか、踏み込んで考えていただき、一気に多額の予算をいれることはなくても、少しずつでもコレクションを育てていく意味でも視点を変えていただけたらと思えます。

〔小林委員長〕：それではご意見がないようなので、次の⑥番「利用者にとって心地よい空間、サービスを提供する。」この問題についてご質問ある方はどうぞ。

〔祓川委員〕：平成24年度から5段階評価に加え、「特によかったところ、よくなかったところ」を具体的に記述していただく欄を設けていますとありますが、かなり意見があったので

しょうか。美術館にとって、内部にいてよくわからないものが、外部の人から指摘があって、これはよかったと思えるものがかなりありましたか。

〔事務局・高橋〕：アンケート調査で毎月集計を行っており、様々な意見が入ってきます。その情報をもとに我々も、直せるところは直しますし、大きな修繕等どうしても直すのに相当な予算がかかるものは、大規模な改修ができるときなどに可能であれば併せて直すことができるよう、頭の中に入れていきます。

〔事務局・日野原〕：月一で事業者運営会議というものをやっております、その際にショップやレストランにアンケート結果をお示ししています。例えばショップの品揃えが落ちてきているとか、夏場ですとレストランが混み合っているとか、そういったことを事業者さんにもお伝えしているので、美術館だけでなく委託事業者さんの中でも改善につながることをいただいています。

〔小林委員長〕：横須賀美術館はみなさん親切で建物もきれいで評判が良いので頑張っておられると思います。実施目標の中でホスピタリティのある来館者サービスをとありますが、ホスピタリティとつければホスピタリティになるようなので。昔、民主主義的と言ったり書いたりすると、あまり民主主義的でない人までが民主主義的になってしまう話がありました。ホスピタリティについても、言葉が先行するといけませんので、具体的に何か、特別に目標にしている点はありますか。

〔事務局・高橋〕：ショップの商品の充実が望まれていますので、毎月のミーティングなどで伝えていきます。例えば、近々クレジットカードが使えるようになります。クレジットカードが使えるようにして欲しいという要望もいただいていた。事業者の考え方にもよりますが、このような要望も多少は考慮していただいております。11月くらいからクレジットカードが使えるようになるというお話は進んでおります。また、もう少し関連商品が欲しいと要望しましたら、谷内関連のクリアファイルができたりと、実現は進んでおります。今後も向上に努めてまいりたいと思っております。

〔事務局・富田〕：少し捕捉をさせていただきます。今ご質問がありました、ホスピタリティに関してですが、ホスピタリティはおっしゃる様に非常に難しいと言いますか、曖昧です、受ける側と与える側で食い違ふ、かみ合わせるのが難しい領域だと思っております。その難しさを踏まえまして、特に意識的にお客様サービスのなかで向上すべきこととして認識しているのは、高齢の方や身体障害者の方への対応として、ある程度の専門的なスキルや特定のテクニックの必要性があるということです。このため、平成30年度はユニバーサル研修というものを比較的しっかりと、外部の講師や障害当事者の方も招いて、受託事業者さんと一緒に行いました。それ以外にも、避難訓練の時などを利用して、例えば車いすでどのようにお客様を誘導していくか、視覚の落ちてきている人をどのようにサポートしていくかを、そうした状況を体験できるメガネをして避難訓練をするとか、そのようなトレーニ

ングを少しずつ積み重ねておまして、多少はスキルアップが図られているのではないかと考えております。

〔祓川委員〕：とても努力されていると常々思っております。このような市民の方からの要望を努力して変えようとしていることを何かの形で、遠慮せずに努力していることが市民に分かるような。一方通行のように思います。ここを良くして欲しいという意見があつて、努力しても報告がないので、市民の人に伝わらない。改善されたという報告を何かの形で発信すれば、市民の方たちも努力しているということがわかる。ボランティアをやっていると努力していることが痛いくらいわかりますが、来館者はわからないのでもう少しアピールしてほしいです。

〔小林委員長〕：なにかほかにございますか、よろしいですか  
それでは次の⑦番「すべての人にとって利用しやすい環境を整える。」です資料の 23 頁から 25 頁です、何かご質問はありますか。

(質問なし)

〔小林委員長〕：特にご質問がないようなので、次の⑧「事業の質を担保しながら、経営的な視点をもって、効率的に運営・管理する。」、この視点でご質問はありますでしょうか。

(質問なし)

〔小林委員長〕：それでは①番から⑧番までの質問を進めてきましたが、話を聞いていく中で、これも聞いておいた方がよかったことがあれば、ご質問をお願いします。

〔菊池委員〕：3 頁の上から 2 番目の京浜急行がよこすかグルメ切符からよこすか満喫切符にしてそのひとつのサービスの箇所として美術館が組み込まれたと思うのですね。やはり京浜急行に聞いてもグルメ切符よりも相当、満喫切符の方が、人気があるということでこの数字を見ても今年度入って半年で 1,490 人の方が来館したという結果になっているので、その辺の効果は実感としてどうなのかなと。

〔事務局・相良〕：満喫切符の利用者ということで、最初から美術館に来たいという人以外に横須賀観光という目的で切符を買った方々が多数みえられるようになったと感じています。

〔菊池委員〕：半年で 1,500 人の有料観覧者数ですから良い傾向ですね。

〔菊池委員〕：先ほどのアートカードについて、15 頁ですね、アートカードの貸し出しが 8 件とあり、8 件のうち 7 件が横浜市为学校だったということですが、最初は地域の学校で利

用され、その後、他地域に広がったということですか。

〔事務局・富田〕：全市立の小中学校には最初に配備しておりますので、貸し出しをする場合は、逆に市外の学校からご要望をいただく場合に限られます。

〔菊池委員〕：わかりました、市内の学校にはあるということですね。つまり、市外の学校に貸し出しているということは、やっぱり広がりが出ているということですね。

〔丹治委員〕：学校に10セットあるのですけれど、足りない場合は、他校から借りたりしていますね。

〔菊池委員〕：なるほど、融通し合っているのですね。いいですね。

〔小林委員長〕：ほかに何かご質問はありますか。

〔草川委員〕：さきほどの満喫切符の件ですが、観音崎京急ホテルのスパッソ、喫茶で参加させていただいているのですが、美術館にいらしてからスパに来るといってお客様がだいぶ増えています。スパのフロントでどこからいらしたのかとか、横須賀のどちらをまわられているのかお話を聞いているのですが、美術館を目的にこられて、観音崎にスパがあるからスパに入られたということで相乗効果も出ています。

〔小林委員長〕：当初から、この委員会でも、ここに美術館があつて京急ホテルさんとはロケーションもいいので、タイアップしてという話もでていました、エリア全体を相乗的に活性化しようというそのような話もありました。

〔草川委員〕：企画展ですが、さきほど英雄豪傑展観覧者数の達成率71.1%、三沢厚彦展の達成率119.6%と説明がありましたが、高達成率の分析は行いやすいと思いますが、低達成率の分析はできているのでしょうか。色々な要因はあると思いますが、いい数字より悪い数字の方が気になります。私どものレストランでも企画展にコラボさせていただきましたが、英雄展はあまり数字が芳しくなかったのです、低達成率の展覧会は何か理由があるのでしょうか。

〔事務局・工藤〕：低達成率の英雄豪傑展に出品していた作品は日本画、浮世絵、油絵、現代美術など、かなりバラエティに富んだ展覧会でした、過去にもバラエティに富んだ展覧会も開催してきましたので、それが低達成率の問題ではなかったのだらうと思います。おそらくですが、展覧会に来る方は女性が多いのですが、女性にとって勇ましい英雄豪傑という画題を観覧しようという方が通常よりは少なかったのかのではないかと分析をしています。必ずしもこれだけが一つの理由ではないかと思っておりますが、画題への親しみを感じにくかったのかかもしれないと思っております。

〔草川委員〕：それもあるかと思えますね、私は男ですので。展覧会を見せていただいて、最初からのイメージでいい展覧会だろうと思って、私は満足していたのです。

〔柏木委員〕：性別や年代別など、お客さんの統計はとられていますか。

〔事務局・相良〕：性別の統計はとっていませんが、年代別の統計は取っております。やはり三沢展ですとか、2017年の tupera tupera 展は中学生以下の無料観覧の方が多く、英雄豪傑展の時は無料観覧者が少なく、どちらかというとファミリーというより、大人同士で観覧することが多かったです。

〔柏木委員〕：ためしに統計を取ってみたらどうでしょうか。女性観覧者が伸びるか伸びないかで観覧者の入りはかなり違います、横浜美術館では今年度「ヌード」をテーマとした展覧会を開催しました。この展覧会は集客が思わしくなく、データーを年齢別、性別で見ると、圧倒的に50代男性が多いのです、40代から60代の女性のお客様はあまり足を運んでいただけませんでした。男性が展覧会に来ても、観覧するだけで帰ってしまうケースが多く、お金をあまり美術館に落とさないことが多いのですが、女性の場合は観覧後にレストランで食事をしてミュージアムショップでお土産を買っていただくなど、購買の活動があります。英雄豪傑展は男女の観覧者数の統計を取り、分析をすることで見えてくるものがあるのではないのでしょうか。英雄豪傑展は主題的にいうと男性が好きな主題だと思います、横浜美術館で開催した「ヌード」はヌードというテーマ自体が、女性に敬遠されたことがあったのかなと統計を見ても感じています。横須賀美術館でもためしに男女統計を取ってみると面白いことが分かってくるかもしれないと思います。

〔事務局・相良〕：統計では取っていませんが、アンケートでは男女別のデーターがありますので、それを分析していきたいと思います。

〔柏木委員〕：横浜美術館では統計の数字をグラフにして館全体で共有し分析しています。

統計の数字を見て、この部分が問題だったと見えてくるものがあります、横須賀美術館でもデーターを取っているようであれば、情報を共有して分析してもいいと思います。

〔小林委員長〕：どうもありがとうございました。ご説明いただいたことにご質問していただき年々活動状況を作り上げていくのには、繊細かつ多面的な形で配慮されていますので、とてもよくなっているなど感じています。

やはり自己評価があって、さらなる充実した活動に繋がっていくのかと思います。

委員の皆様ありがとうございました。

〔小林委員長〕：次に、次第の3「委員会のスケジュールについて」、事務局から説明をお願いします。

[事務局・秋山]：それでは、資料1「運営評価委員会スケジュール」をご覧ください。

－ 資料1による説明 －

[小林委員長]：ご質問はありませんか。特にないようですので、事務局は、スケジュールにそって日程の準備を進めてください。以上で会議を終了したいと思いますので、事務局へお返ししますのでよろしくお願いします。

[事務局・高橋]：以上をもちまして、本日の会議は終了となります、ありがとうございました。